



かまどでごはんを炊く方法の説明に子どもたちも興味津々

2007年10月末の日曜日、秋晴れの空の下、「火育：火の力を知ろう！サンマをジウジウ焼こう！」イベントが京都市サーチパークにおいて開催されました。



自分が焼いたサンマに思わず笑顔

次世代教育「火育」がスタート ～火に親しみ、火を学ぶ～

大阪ガスグループでは、調理習慣を身につけることや、家族で囲む楽しい食卓の経験が子どもたちの健全な心と体を育むと考え、長年にわたり料理講習会などの活動を通じて「マイホームクッキング」を推進してきました。

今回「食育」の新たな試みとして「火育」が体験できるイベントを企画・協賛しました。

参加者の声(子ども)
.....
さかなはきれいだけど、自分でやったらおいしかった。(8才)



炊きあがったごはんに、みんなが注目

参加者の声(子ども)
.....
またやりたいです。
帰って七輪でおもちを焼いて食べたいです。(7才)



炭に火をつけるのも初めての経験



サンマの焼け具合を確かめながら慎重に

参加者の声(おとな)
.....
これまで子どもに火を使わせなかったが、良い体験ができました。(41才母)
魚をいつも嫌がる子どもがおいしく食べました。
ビックリです。(29才母)



火吹き竹でふーふー

当日は約100人の親子が参加。かまどで炊いたご飯と自分で七輪に炭火をおこして焼いたサンマを青空の下で味わう初めての体験に、子どもたちの笑顔がはじけました。

「火育：火の力を知ろう！サンマをジウジウ焼こう！」イベント NPO「子どもサポートプロジェクト」主催、大阪ガス(株)リビング開発部・京滋リビング営業部コミュニティ室、京都市サーチパーク(株)、(株)アプリーティセサモ(クッキングスクール京都)、大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所協賛、京都市教育委員会後援。2007年10月28日開催。

火育とは ～火に親しみ、火を学ぶ～

現代の便利な都市生活の中で、実際の火を見たことがないまま成長する子どもたちも増えていきます。火の暖かさや素晴らしさを伝え、安全な火のおこし方や扱い方、火を使った調理を体験し、できあがった料理をじっくりと味わうという経験を通して、子どもたちの豊かな心を育みたい。「火育」は、そんな願いを込めた言葉です。新たな次世代教育として、たくさんの子どもたちに体験してほしいと考えています。

担当者より 大阪ガス(株) エネルギー・文化研究所 山下満智子

エネルギー・文化研究所では、食育を重要な研究テーマとしています。「火育」はその試みのひとつ。台所の変化を研究される山口昌伴氏((株)GK道具学研究所所長)の、「(子どもたちは)火が熱いということも知らずに育ってしまう」という一言が、この試みのヒントになりました。火育を通じて、子どもたちに食の教育の場を提供することができたらと考えています。NPO「子どもサポートプロジェクト」の皆さまや、多くの方の協力を得て実現できました。楽しく体験して学んだことは、いつまでも心に残るもの。これからも火育で親子のコミュニケーションや子どもたちの健やかな成長に貢献していきたいと思っています。